

陸軍勅負締制關係

0535

秘

編第一號

近衛師團ニ於テ無線電信隊航空隊鐵道隊各一個

第一師團ニ於テ臨時測圖部一個、第四師團ニ於テ新

炭採集部一個、編成ヲ令セラル編成第一日ハ八月

四日ナリ

大

大正七年八月三日午後二時

軍務局

軍令部

海軍大臣加藤友三郎殿

陸軍大臣大島健一

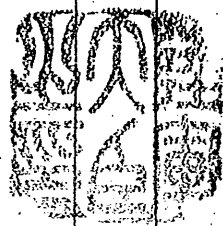
第

班

陸

軍

古賀



部令軍  
7.8.5  
受領

7.8.5  
官房受領

0536

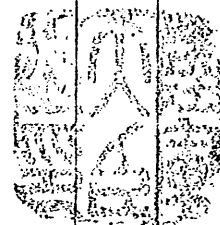
編第二號

甲號軍司令部、編成ヲ令セラル編成第一日八月四日ナリ

大正七年八月三日午後三時

陸軍大臣大島 健一

海軍大臣加藤友三郎殿



令



陸軍



7.8. 官房

4 領

0537

軍令部

軍務局

編第三號

第十二師團ニ於テ獨立野戰重砲兵大隊一編成ヲ令セ

ラル編成第一日ハ八月六日ナリ

大正七年八月四日正午十二時

陸軍大臣大島 健

海軍大臣加藤友三郎殿

小牧

陸軍

0538

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

参

秘

参一發第一群

あ  
手  
は

お

大正七年八月六日

参謀總長男爵上原勇作

海軍大臣加藤友三郎殿

軍務局

聯合與國(英米佛支)軍ト協同シテ「ケエツグスロワツク」軍  
ヲ救援スル爲先ツ第十二師團長隸下部隊(別紙第二)  
ヲ沿海州ニ派遣セラル其第一梯團(別紙第二)ハ八月十  
一日頃ヨリ同二十五日頃ニ亘リ浦潮ニ上陸スル豫定ナリ

青

信

7. 8. 8  
官房受領

0539

7. 8. 8

自今作罷

ヲ以テ送ハ

海州派遣件通報  
長男爵上原勇作

同シテ「ケエグスロワ」軍  
長隸下部隊(別紙第二)  
小團(別紙第二)ハ八月十  
潮ニ上陸スル豫定ナリ

7. 8. 8  
官房受領

0539

7. 8. 8

自今作戰ニ関スル通報ハ本参一發  
ヲ以テ送付可致候也

0540

別紙第一

第十二師團長隷下部隊

第十二師團

獨立野戰重砲兵大隊

野戰電信第十八中隊

第一無線電信隊

第一航空隊

第十二師團第一兵站輸送縱列

第十二師團第二兵站輸送縱列

第十二師團第一輜重監視隊

第十二師團第二輜重監視隊

第十二師團第三輜重監視隊

第十二師團第四輜重監視隊

野戰豫備病院第二十二班  
患者輸送部第二十三班  
第一鐵道隊  
第十師團第七陸上輸卒隊  
第十師團第八陸上輸卒隊  
第一薪炭採集部  
第一臨時測圖部

0542



別紙第二

第十二師團長隸下部隊第一梯團

第十二師團司令部  
步兵第三十五旅團  
騎兵第十二聯隊  
野砲兵第十二聯隊  
獨立野戰重砲兵大隊  
二兵第十二大隊  
第十二師團電話隊  
第十二師團衛生隊（擔架一中隊及）  
第十二師團野戰病院一箇  
野戰電信第十八中隊  
第一無線電信隊

0543

第一	第一	第十	第十	第一	第十二	第十二	第十二	第十二	第一
臨時	薪炭	師團	師團	鐵道	師團	師團	師團	師團	航空
測圖	採集	第八	第七	隊	第四	第三	第二	第一	隊
部	部	陸上	陸上		輜重	輜重	輜重	輜重	
		輸卒	輸卒		監視	監視	監視	監視	
		隊	隊		隊	隊	隊	隊	



7-

1

日	午後	十時	三十分	海軍局	着
日	午後	十時	一分	宇島局	發

藤吉少佐

軍令部副官

電報譯

七月七日午後藤堂大尉以下八  
浦塩二井口大尉以下四名門司  
向ヶ出発セリ

3

事也。陰有暗子，其心  
特別。雖便也。暗子，其心  
特別。雖便也。暗子，其心

司  
左  
嘉

海

軍

明正經

0546

海

保  
秘



最近極東ニ於ケル獨逸軍及過激派軍ノ行動ニ関スル觀察

參謀本部

大正七年八月八日

7.8. 8  
官房受領



0547

最近極東ニ於ケル獨逸軍及過激派軍ノ行動ニ  
關スル觀察

觀察ノ要旨

一、最近ニ於ケル極東獨逸軍及過激派軍ノ行動ヲ觀ルニ  
從來ニ於ケルカ如ク局部的各箇ノ統制ナキ軍事行動ト  
全ク其趣ヲ異ニシ戰略戰術ノ原則ニ準據シ而テ統一的  
指揮及節制ノ行ハシ且軍隊ノ指揮及統帥ノ實權ハ獨逸  
將校ノ手裡ニ存スルコト疑フ餘地ナキカ如シ  
二、現下ニ於ケル獨逸軍及過激派軍ノ行動ニ就キテ判斷  
スルニ一部ヲ以テ沿海州ニ行動セシメ主力ヲ以テ後貝  
加爾ニ位置シ成シ得ル限リ我聯合軍ノ前進ヲ支阻セン  
トスルニ在ルモノノ如シ從テ後貝加爾ニ於ケル敵主力  
ヲ擊攘スルニアラサレハ西部西北利トノ連絡不可能ニ

0548

シテ「チエック」救援ノ目的ハ後貝加爾ニ於ケル敵ノ撃攘  
ヲ待テ始メテ之ヲ達成スルヲ得ヘシ

以上要旨ノ具體的事實ヲ述フルコト次ノ如シ

(一) 武裝俘虜ノ移動集中カ戰略的意義ヲ含ムニ至シ  
ルハ已ニ四月初旬乃至中旬ニ於テ其徴ヲ發セルヲ  
見五月初旬俘虜軍及軍需諸材料飛行機等ノ「イルク  
ー」ツクヨリ「チタ」ニ輸送セル等ノ事實アリ後貝加爾  
ニ前進根據ヲ形成シ要スルハ逐次ハ抵抗ニ依リテ  
支阻ノ目的ヲ達セントスルニ意アリシカ如シ  
次テ「セメノフ」ノ後貝加爾ノ前進ニ際シ日本軍ノ後  
援アルヤノ噂アリシヲ以テ一時大恐慌ヲ來タシ後  
貝加爾撤退ノ意志アルヤニ傳ヘラレタルモ其後「セ  
メノフ」軍ノ後方ニ武力ノ支援ナキヲ知ルニ及ヒ再

(二)

ヒ後具加爾ノ保持ニ決セルカ如ク而シテ聯合與國  
ノ意思協調ヲ缺キ時日遷延ノ結果ハ季節ノ關係上  
後具加爾ヲ保有スルコト困難ナラサルノ狀況ニ鑑  
ミ且東進スルチエック軍ヲ支阻スルニモ先ンシテ  
後具加爾ニ出テテ西面シテ其進出ヲ擊攘スルヲ有  
利トシ地形ノ難ヲ利用シテ内戰作戰ニ依ラントス  
ル意圖アルカ如ク察セラル今ヤ其過激派本部ハチ  
タニアリ其軍總司令部ハチタノ東方ガルイムスカ  
ヤ(後具加爾鐵道ト黑龍  
鐵道トノ交点)ニ位置シ兵力ヲチタ附近ニ集  
中シ同地附近ニ頻リニ防禦陣地ヲ構成中ナルカ如  
シ

沿海州ニ於テチエック軍ニ對抗セル敵ノ實力ハ倭  
虜軍隊ニシテ獨逸將校之レヲ指揮セルコトハチド

0550



リックスノ報告ニ依ルモ明ニシテ其戰術行動ハ勿  
論鐵道及道路ノ破壊ノ如キ極メテ迅速且巧妙ナル  
真ニ驚クヘキモノアリ尚獨逸將校死屍中ヨリ得タ  
ル獨逸參謀本部ノ無線電信ヲ以テ彼等ニ與ヘタル  
命令ニ依レハ俘虜軍ヲ以テ過激派軍ヲ支援シ極東  
ニ於ケル聯合軍ニ對抗シ必要ニ際シ西伯利ニ於ケ  
ル獨軍ノ先驅タルヘキ任務ヲ授ケ居ルコト明ナリ  
又セメノフ正面ニ於ケル過激派軍中ニモ亦純然タ  
ル俘虜軍アリ亦衛軍モ亦獨逸將校ニ指揮セラレ居  
ルコトハ各方面ヨリ得タル諸報相一致ス  
以上ノ事實及最近「エツク」正面ニ於ケル敵軍ノ行  
動ニ依リテ觀ルニ彼等ハ必シモ烏合ノ衆ニアラス  
シテ戰術的節制ヲ有セルコト明ナリ

0551

(三)

最近浦港ニ於ケル「チエツク」軍ノ蹶起以來當面ノ  
敵軍ハ一層軍事行動ニ戰略機能ヲ現ハスニ至リセ  
メノ「フ」軍ノ壓迫及其後ニ於ケル兵力移動ノ如キ殊  
ニ其然ルヲ觀ル即チ浦港ニ於ケル「チエツク」軍ノ  
「コリス」ク附近ノ敵ヲ擊攘シテ北進セントスルヤ  
直ニ黑龍州ニ在リシ部隊ヲ「ハバロフ」スク方面ニ派  
遣スルト共ニ後具加爾方面ニモ之ヲ増加シテセメ  
ノ「フ」軍ヲ壓迫シ其覆滅ヲ期シテ攻勢ニ轉シセメノ  
「フ」軍ノ支那國境内ニ遁入スルヤ無事是レ希ヘル支  
那軍ト妥協シ直チニ該方面兵力ノ一部ヲ沿海州及  
具加爾兩方面ニ増援セルカ如キ又沿海州ニ於テハ  
「チエツク」軍先進部隊孤立ノ實情ヲ察スルト同時ニ  
其後具加爾ニ向テ西進スルノ企圖アルニ對シ直チ

0552

(四)

ニ攻勢ヲ採リ「チエック」軍ノ先進部隊ヲ擊攘シテ  
其主力ヲモ沿海州ニ抑留セントセルカ如キ行動ハ  
決シテ露國赤衛軍烏合ノ衆ノ企畫ニ得ル所ニ在ラ  
ス  
滿州里ニ於ケル支那軍隊ハ無事ヲ希ヒテ只管ニ  
戰ヲ避ケンコトヲ希ヒ過激派軍ト妥協シテ國境ノ  
保安ヲ保ツヲ能事トシ過激派軍隊ハ任意ニ國境内  
ニ出入シ滿州里ニ與國就中日本ニ對スル讒罵ヲ宣  
傳シ邦人ノ財産被害ヲ受クルモノ亦尠カラス加之  
支那軍隊ハ我情況ヲ過激派ニ内通スルノ形勢アル  
カ如ク與國竝ニ沿海州「チエック」軍ノ狀況及其企圖  
等ノ餘リニ詳密ニ知得セラレ之ニ因リテ前記ノ如  
ク敵軍ノ機動ヲシテ適切ナラシムルハ獨リ過激派

0553

及ヒ獨逸秘密機關活動ノ結果ノミニアラスト推斷  
セサルヲ得ス

(五)

最近ニ於ケル諸情報ヲ綜合スルニ獨逸軍及過激  
派軍ハ「夕」附近ヲ根據トシ情況ニ依リテハ後貝  
加爾ニ真面目ノ抵抗ヲナスノ意アルカ如ク頻リニ  
防禦工事ヲナシ又其一部ハ「ウエル」フネウーヂンス  
クヲ根據トシテ貝加爾方面ヨリ進出スル「チエツ  
ク」軍ノ進出ヲ待テ之ヲ撃攘スヘキ準備ニ在リ而シ  
テ此兵力配置及部署要領ハ單ニ烏合ノ衆軍ノ所爲  
トシテ輕視スヘカラサルモノアリ今日ノ情況ニ於  
テハ「チエツク」獨力ヲ以テ後貝加爾ニ通路ヲ開クカ  
如キハ到底望ム能ハサル所ナルヘシ

以上ノ觀察ニ對シ更ニ考慮スヘキハ目下一般ノ狀況ハ

0554

獨逸ノ爲極メテ不利ナル形勢ニ在ルコトトス即チ獨逸  
ハ西方戰場ニ於テハ與國ノ攻勢移轉ニ對スル防禦ニ急  
ニシテ他ヲ顧ミルニ遑ナク七月初旬在露スモレンスク  
附近ノ一軍ニ下シタル露國內進發準備命令モ其儘ニ中  
止セラレタルカ如ク此形勢ニ於テ西伯利ニ於テハ「チエ  
ツク」軍鐵道沿線ニ蟠居シ今ヤ貝加爾湖以東ノ敵軍ハ殆  
ント孤立ノ狀態ニ在ルナリ然レトモ若シ西方戰場ノ情  
況緩和セララルルニ當リテハ西伯利方面不利形勢ニ對シ應  
急ノ處置ヲ取ルヘキハ勿論ナリ故ニ此際極東「チエツク」  
軍ヲ支援シ後貝加爾ノ敵ヲ殲滅シテ獨逸勢力ノ禍根  
ヲ艾除クハ當ニ「チエツク」軍ヲ救援スル唯「チエツク」  
路ナルノミナラス全般ノ狀況上極メテ有利ナル影響ヲ  
與フヘキヤ必然ナリト云フヘク更ニ考フレバ季節ノ漸

次寒冷ニ向フニ於テ「チエツク」救援ノ一日モ急速ナラ  
ンコトヲ希ハサルヲ得サルナリ

軍務局

生

大

海軍大臣加藤友三郎殿

陸軍大臣大島健一

編第四師  
第四師團ニ於テ軍樂隊一編成ヲ令セラル  
大正七年八月十日午前七時

7.8.11  
官房

陸軍

0557

軍務局

次官

供~~應~~極秘

①

參一發第二號

浦潮派遣軍司令部ヲ沿海州ニ派遣セラル又第一  
軍樂隊ヲ沿海州ニ派遣シ第十二師團長ノ隸下  
ニラシメラル

第二號  
小牧

參謀總長

大正七年八月九日

0558



大正

供覽

至急

第一課  
第二課

浦軍普第五路

大

軍司令部東京出張時日、件通牒

大正七年八月十日

浦潮澄達軍副官天野邦太

海

軍司令部大角大生股

軍務局

本軍司令部軍司令官以下幕僚八別紙列車

張着時刻表

八月十二日午後三時二十五分

東京驛出發廣島三向、鐵道輸送相成候

亦及通牒候也

軍令

別

陸

軍

0559

陸軍

勅令第二號

勅令

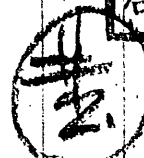


近衛師團及第一師團ニ於テ架橋縦列各一個ノ  
勅令ヲ令セラル勅令第一日ハ八月十五日ナリ

大正七年八月十五日午後二時

陸軍大臣 大島 健一

軍務局



海軍大臣 加藤 友三郎 殿



7. 8. 12  
官房受領

陸軍

0560

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

軍務局

12

編第五號

近衛師團ニ於テ航空隊及航空廠ノ編成ヲ令セラル  
編成第一日ハ八月十二日ナリ

大正七年八月十日午後二時

③

陸軍大臣大島健一

海軍大臣加藤友三郎殿

④

陸軍

7. 8. 12

官房受創

0561

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

海

軍務局

供覽

根

秘

電報

取扱者

八月十二日午前七時五十分發

第三部長宛

在

陸軍運輸部本部長

軍司令部ハ香港丸ニ乗船十四日午後三時字品發  
十五日午後五時門司發十七日夕浦塩著ノ計畫

㊦

㊦

小波

田

信

賀

信

陸

軍

7. 8. 13  
官受領

0562

五三

大正七年八月十四日

午前十一時十六分  
午後一時三十五分  
宇品局發  
海軍局着

發信者 藤吉少佐

受信者 大臣

四番電報 電報譯

沿海洲派遣軍司令部十四日午後  
三時發十八日午前浦塩上陸  
定

海軍

山本

海軍

0563

機

編第六號

第十二師團補充馬廠ノ編成ヲ令セラル編成第一日八月十七

日ナリ

水

大正七年八月十八日正午十二時

軍務局

陸軍大臣大島健一

海軍大臣加藤友三郎殿

名

林

山本

山本

山本

山本

山本

山本

山本

陸軍

軍令部

軍務局

秘

不

南洋派遣軍司令部ニ政務部ヲ附屬セラル

大正七年八月十日午後四時

陸軍大臣 大島 健

海軍大臣 加藤 友三郎 殿

第二課

第一班

大臣官房 庚

7.8 12 官房 便

0565

軍務局長

伊藤

(印)

參一發第三號

通報

第十二師團長隷下部隊ノ先頭タル師團司令部歩兵第三  
十五旅團司令部歩兵第十四聯隊(大隊ト特種砲隊欠)ハ  
十一日午後浦潮ニ上陸セリ

大正七年八月十二日  
參謀總長

7. 8. 13  
官印受領

0566



軍務局

供

五三

大正七年八月十四日

午前十一時十六分  
午後一時三十五分  
宇品局  
海軍局  
着

發信者

藤吉少佐

受信者大臣

電報譯

四番電報

沿海洲派遣軍司令部十四日午後

三時發十八日午前浦塩上陸

定

海軍

0567

軍務局

長

極秘

參一發第四號



通報

大正七年八月十六日

參謀總長

大正七年八月十六日

八月十二日以後十四日迄浦潮ニ上陸シタル部隊ハ  
歩兵第十四聯隊ノ殘部及同第二十四聯隊(特  
種砲隊欠)ニシテ第二十四聯隊ハニコリスクリニ向  
ヒ前進セリ

沿海州方面ノ「チエツク」ハ先ツ歩兵約三大隊ヲ該方  
面現在戰線ニ止メ以テ日本軍ノ前進ヲ掩護シ其  
主力ハ八月九日ヨリ東清線經由哈爾濱以西ニ向ヒ  
輸送ヲ開始セリ

竇

7.8.17  
官房受領

0568

軍令部

軍務部

陸軍

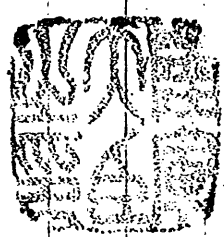
編第七號

近衛師團ニ於テ第二鐵道隊ノ編成ヲ令セラル編成第一

大正七年八月十八日午後一時

陸軍大臣大島健一

海軍大臣加藤友三郎殿



陸軍

0569

供覽

極秘

一發第五號

參謀總長

大正七年八月十九日

7. 8. 20  
官房 支那

軍務局長

一、烏蘇利鐵道沿線ノ「チエツクスロワツク」軍ハ敵ヲ壓  
 迫シテ烏蘇利河ノ線ニ達セルモ「ハバロフスク」方面ヨ  
 リ増援ヲ得タル敵ノ攻撃ヲ受ケ八月上旬「シマコ  
 ヲカ」南方地區ニ退却シ約九千ノ敵ト相對峙シア  
 リ「チエツクスロワツク」軍ハ其後英、佛軍計十五、六  
 百ノ増援ヲ得タルモ敵ハ同軍主力ノ東清鐵道方  
 面ニ轉進セルニ乘シ十五日ヨリ攻撃ヲ開始シ「チエツク  
 スロワツク」軍ノ右翼ニ在リシ「カルク」支隊ハ十五  
 日朝野ニ退却スルノ已ムヲ得サルニ至リ同軍ノ狀態

0570

危殆ニ瀕セリ。茲ニ於テ我第十二師團長ハ其第一梯團  
 フコスパスカヤニ附近ニ開進スルニ決シ既ニ「ニコリスク」ニ  
 到着シアリシ歩兵第二十四聯隊ノ一大隊ト騎兵一中隊ヲ  
 歩兵第二十四聯隊長、指揮ヲ屬シ「スイヤギナ」(「シマ  
 コフカ」南方約八里)ニ派遣シテ開進ヲ掩護シ併セテ「チ  
 エックスロワツク」軍ノ退却ニ際シ之ヲ收容セシムルニ決シ此部  
 隊ハ十六日夜「ニコリスク」ヲ發車セリ。  
 二、十日朝迄ニ浦潮ニ上陸セル我部隊ハ歩兵一旅團騎兵一中隊、  
 野砲兵一大隊(一中隊欠)工兵一大隊、師團電話隊、電信中隊  
 及鐵道隊ニシテ軍司令官大谷大將ハ十八日朝浦潮ニ上陸セリ  
 三、北滿出動部隊ハ十六日より行動ヲ開始シ其東清鐵道  
 ニ由ル輸送ハ十七日より實施セリ

0571

0570

軍務局

供覽



二〇二四

大正七年八月二十日午後九時五十分  
大正七年八月二十日午後十時三十分  
海軍局 宇品局 發



受信者 大長

電報譯

藤吉少佐



第十七師團、殘部及架橋縱列一箇ノ  
輸送八月二十三日ヨリ門司及發開始セラル  
ル豫定

海軍

0572

海軍省

大正七年

八月二日

午後九時

五分

宇品局發

供

電信者

藤吉少佐

局著

受信者 軍令部長

電報譯

六島電報

第十二師團、残部及架橋縦列

二個、輸送八月二十三日、門司

發開始セラルル予定

軍務局

(3)

海軍

0573

軍務局別

秘

安

大正七年八月二十二日

午後四時

午後四時

午後四時

午後四時

午後四時

午後四時

午後四時

午後四時

午後四時

午後四時

午後四時

午後四時

發信者

第三艦隊司令長官

受信者 軍令部長

電報譯

香取、鹿島、率、加斯土里斯、向、

海軍

0574



省

大正七年八月二十二日 午後一時〇分 宇都宮局 發

發信者 第三師團司令部

受信者 軍司令部

電報譯

黒神丸 コライフス

八月廿七日 午後三時三十分

軍務局

供覧

海軍

0575

電務局

秘

江

大正七年

八月二十二日

午前八時

海軍局 第五戰隊司令部

受信者

發信者

第五戰隊司令部

軍令部長

機密第二十七号 電報譯

八月廿一日在浦米國領事、得タル情報要旨

一瑞典人、言ニ依リ、松花江及黑竜江、會合處付

近ニ在ル砲艦二隻、各十五種砲二門、十種砲五門

ヲ有ス、又「ハバロフスク」ニコライフスク、同ニ在ル砲艦

二隻、何レモ其兵器前者ヨリ微弱ナリ

「ハバロフスク」ニ在ル砲艦ハ友邦租界ニ在リ其數

八千、内獨逸俘虜五千アリ、同地住民、大部分ハ

獨逸艦ニ對シ反感ヲ抱ケリ

癸電先、軍令部長、第三艦隊長官、第三水雷戰隊司令官

0576

秘

伊賀

軍務局

別

二〇四四

大正七年八月二十二日午前十時 分 宗谷岬局 發  
大正七年八月二十二日午後三時四十分 海軍局 發

（印）

受信者大臣

（暗號）電譯報

黑神丸ニコライフスク着

八月二十一日午後三時三十分

了

0577

軍務局

伊豆

別

間宮海峡着八月午後九時

電報譯

受信者大員

印

發信者

第二驅逐隊司令

大正七年八月

二十

午後二時三十分

宗谷局發

行動簿

0578

供覽

大

秘

二〇五〇

大正七年八月二十二日午後〇時四十分 船橋局發

打

受信 次官、軍令部次長 發信者 第五戰隊司令官

電譯報

機密第二百十五號

林

二十日午前味方戰線最右翼「カ」隊敵ノ迂回ニ依リアントノフカ陣地ヲ撤退シ山砲ヲ奪ハレタリトノ報アリ目下味方デントノフカヨリカミロウカ線ニ互リ第一線ニ「チ」軍其ノ後方ニ英佛軍アリ我軍モ一小部隊其ノ附近ニ到着シアリ

別

陸軍大臣

(了)

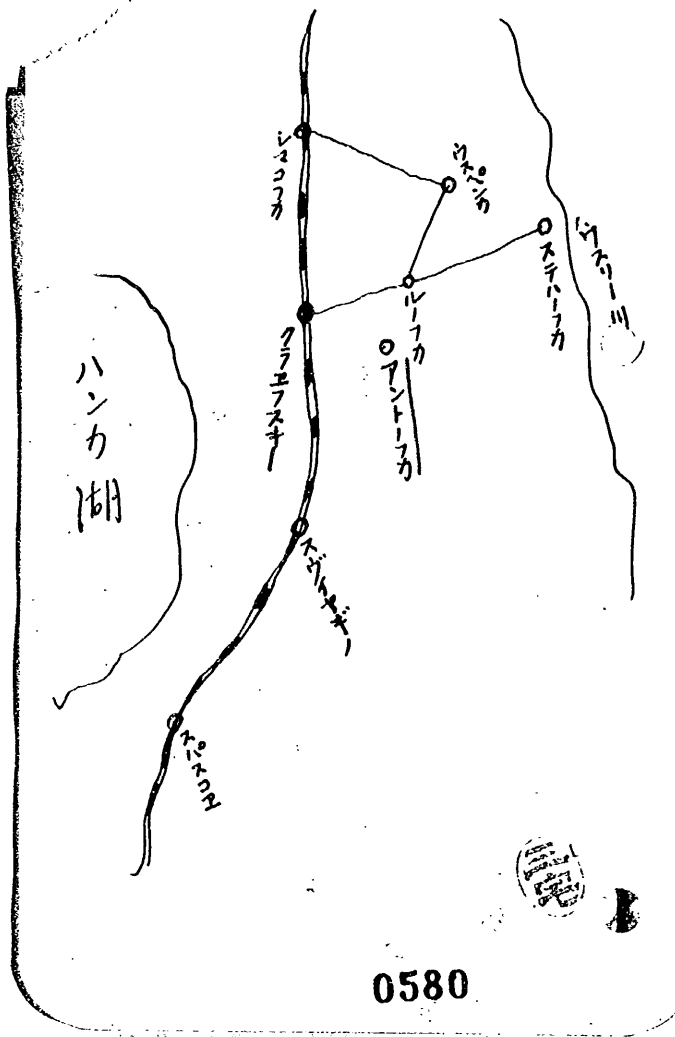
0579

十分船橋局發  
十分海軍局着  
戰隊司令官

右翼「カ」隊敵ノ  
ヲ撤退シ山砲ヲ  
バ方アアントノフカヨ  
線ニ「チ」軍其ノ  
七一小部隊其ノ

(3)

0579



0580

軍令部

軍務局

保衛  
松

〇四三

大正七年八月二十二日 午後四時一分 餘部局發

打

海軍大臣

發信者

第三艦隊司令長官

受信者 海軍大臣

電報譯

香取、鹿島ヲ率井加斯土里斯灣ニ  
向ケ出港

海軍

0581

秘

大臣

供覽

軍務局

廿五

分部別

總理大臣

陸軍大臣

海軍大臣

二〇四九

大正七年八月三十一日午後六時 分 宗谷理局發

大正七年八月三十一日午後九時三十分

受信者

大臣

發信者 第三水雷戰隊司令官

(駐佛)電譯報

林

第二驅逐隊着

メメル今上流ニ去ル偵察中  
八月二十二日午後三時四十分

2

海軍

0582



軍務局

大

二〇五〇

大正 七年 八月 二十三日 午前 一時 四十分 舞鶴無線 發

受信者

大長

發信者

石見艦長

電譯報

八月二十三日午後五時 聖ヴラジミール灣 附近 向ヶ浦 塩 發

海軍

0583.